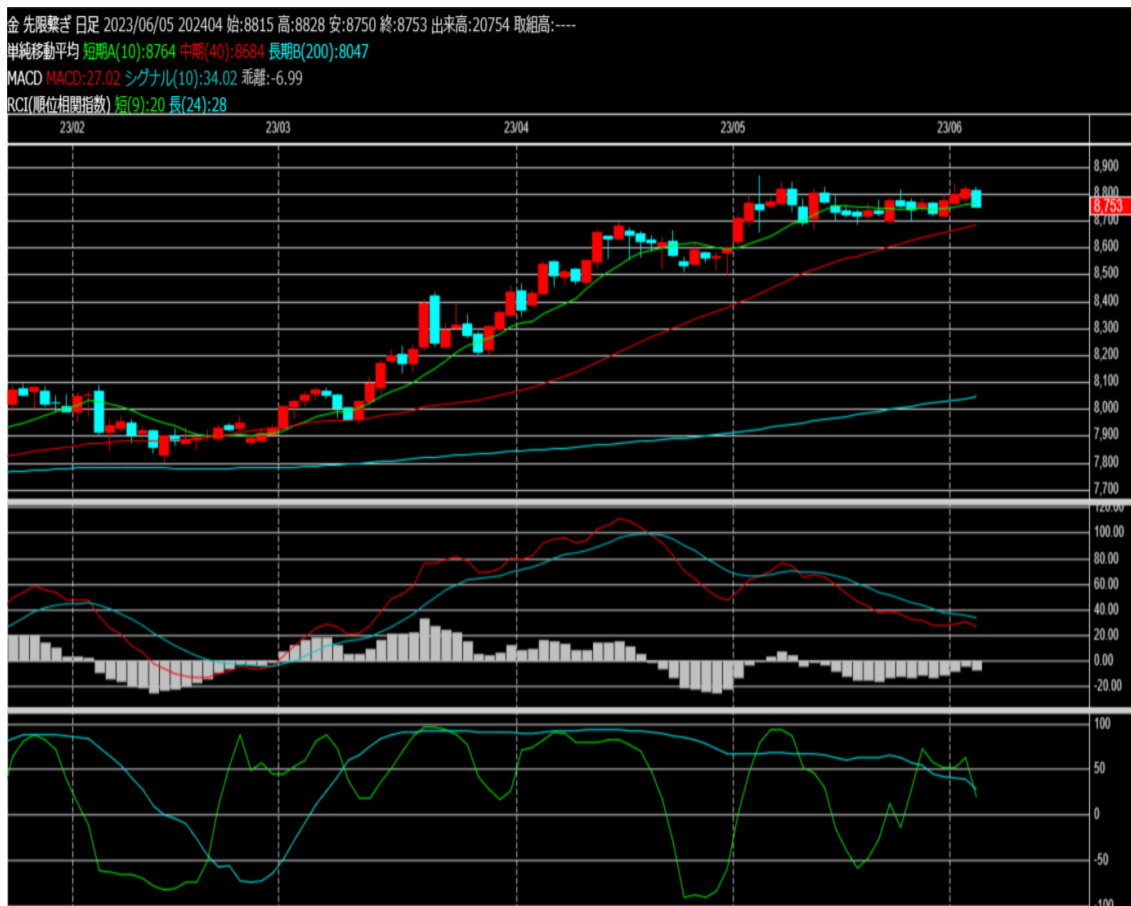


## <金標準、雇用統計でインフレ抑制を再認識・・・>



(出所：オアシス)

債務上限引き上げ問題は、バイデン大統領とマッカーシー下院議長の合意から上下両議会の可決を受けてイエレン財務長官のデフォルトのXデーである6月5日前にバイデン大統領が署名する事から、米国初のデフォルトは回避している。またFOMCにおける金融政策でFRB副議長に指名されたジェファーソンFRB理事は「次回会合で政策金利の据え置きを決定しても、今サイクルのピーク金利に達したと解釈すべきではない」と発言するなど、14日のFOMCで金利据え置きの確率が60%を超える動きを見せていた。しかし週末に発表された雇用統計で非農業部門就業者数が事前予想の19.5万人増を大幅に上回る33.9万人増となるなど、依然と雇用需要は力強さを見せており、金利は上昇を示している。そのため一時金利据え置きの思惑から利上げ再開の憶測へ移行した事で、金標準先物は目先8700円へ向けた下値模索の展開を示すと可能性が高まったと思われる。

### <テクニカル>

金標準先物の日足のMACDやRCIでは、MACDはMACDとシグナルが下げており、またRCIでも短期が下げながら長期が緩やかに下げだすなど、オシレーターは弱気に傾く動きを強めるなど、目先売り有利なサインを示しており、40日移動平均線が位置する8684円へ向けた下値模索に注意が必要と思える。

このレポートはお客様への情報提供を目的としています。情報に関しては正確を期するよう最善を尽くしておりますが、内容の正確性、信憑性に関し保証をするものではありません。利用にあたっては自己責任の下で行って下さい。売買の判断はお客様御自身で行って下さい。

○商品デリバティブ取引は最初に委託者証拠金等の預託が必要で、その額は商品によって異なりますが、最高額は1枚当たり通常取引 1,975,000 円(2023 年 6 月 5 日現在)です。また、委託者証拠金は相場変動や日数の経過により追加預託が必要になることがあり、その額は商品や相場の変動によって異なります。○商品デリバティブ取引は相場の変動によって損失が生ずることがあります。また、実際の取引金額は委託者証拠金の約 10 倍から 70 倍と著しく大きいため、損失額が預託している委託者証拠金の額を上回ることがあります。○商品デリバティブ取引は委託手数料がかかり、その額は商品によって異なりますが、最高額は 1 枚あたり往復 40,700 円(2023 年 6 月 5 日現在)です。手数料額は相場変動により増減する場合があります。

当社(商品先物取引業者)の企業情報は当社本・支店及び日本商品先物取引協会で開示しています。お取引についての御相談は、当社顧客サービス担当(東京)電話 03-5540-8423 (受付時間:平日 8:30~17:30)  
証券・金融商品あっせん相談センター <https://www.finmac.or.jp> 日本商品先物取引協会相談センター  
<https://www.nisshokyo.or.jp>